

今どきの若者事情⑥

ジーザス・ライフハウス

ロッド・プラマー牧師

日本の多くの若者がキリストの福音によって変えられる可能性はあるでしょうか。日本の典型的な諸教会を一望した限りでは悲観的な答えが出そうですが、今回インタビューをした方は、自信を持って「可能はある」と応えます。東京都港区赤坂の「ジーザス・ライフハウス」牧師ロッド・プラマーさんです。

プラマー牧師は、消防士として働いていた19歳の時にクリスチャンになり、その後、宣教師としてタイに行き、またオーストラリアのシドニーで1000人教会のヒルソング教会で奉仕しました。7年前に奥さんのヴィヴィアナさんと、息子のモンティ君（16）リッチー君（12）と共に来日し、奉仕を始めました。赤坂に「ジーザス・ライフハウス教会」を開拓し、現在800人の会員になっています。

「先生は、どのような導きで日本に来られましたか。「ジーザス・ライフハウス」のビジョンはどのように与えられましたか。

当時は、ヒルソング教会の牧師として楽しく奉仕していました。同僚の牧師が短期間日本を訪問した時、東京で多くの若い人の顔を見て強い印象を受け、大勢のオーストラリア人クリスチャンを日本に送り込んで若者に伝道しようという「常識はずれ」の計画を抱きました。そして、私にそのリードをしないかと言うのです。

それより少し前に、妻は主から「津波」のビジョンを与えられました。一緒に祈っている時、単に忠実であるだけでなく、実を結ぶ奉仕ができるようにと神に祈りました。

結局、神さまは私たちに日本の若者たちに伝道するよう「神さまの波に乗るように」望んでおられるという理解に至りました。それで、数ヶ月のうちに家族と10人のオーストラリア人青年とともに東京に来て、働きをはじめました。

「どのように伝道を始めたのですか？」

色々なことをしましたが、メインは沢山のひとと友だちになることです。私たちのメンバーは、渋谷や池袋のスターバックスのような場所で、小グループでの聖書の学び、分ちあい、また祈るために集まります。そ

こで時間を過ごしている若者たちとも知り合いになり、グループに誘ったりイベントに招きます。

心をこめた分ちあいで多くの人間関係ができ、この人たちが聖書を学んで、ついにはイエスキリストを信じるようになりました。「ライフグループ」と呼ぶ4人から6人の集まりを週1回持ち、日曜日は大勢で礼拝に集まります。すべては日英のバイリンガルです。

「伝道の働きは誰がしていますか。どういう人たちをターゲットにしていますか。」

東京には800人の信者がいて、大阪と香港にも教会があります。平均年齢は24歳くらいで、80%が20代の独身者です。最近では、50〜60家族ほどの若い家族もいて、子どもが50人ほど。5人のうち4人は日本人です。全員が友だちを作り、「ライフグループ」に招くように私たちは願っています。今グループが150ほどあり、いつでも次のグループに招ける人を考え祈るよう励ましています。（以下略）